

Briefing Transcription

2025 年 2 月期通期決算概要・中期経営計画および 2026 年 2 月期連結業績予想文字起こし

株式会社 JRC

6224 東証グロース市場 機械

企業情報はこちら >>>

2025 年 4 月 25 日 (金)



FISCO Ltd.

<https://www.fisco.co.jp>

■ 目次

■ 決算説明を受けての FISCO アナリストコメント	01
■ 出演者	02
■ 会社概要	03
■ 2025 年 2 月期 通期決算概要、長期ビジョン、中期経営計画	07
■ 事業概略、財務戦略・資本政策、人的資本強化	20
■ DX 戦略、サステナビリティ	31
■ 2026 年 2 月期 連結業績予想	34

■ 決算説明を受けての FISCO アナリストコメント

- ・ 圧倒的一強の「コンベヤ周辺 = JRC」を実現しており、リカーリング、M&A、海外で高成長を遂げることができている。
- ・ ロボット SI 事業の高成長により、同関連としても注目度も高まってきている。
- ・ 2028 年 2 月期で売上高 172 億円、営業利益 23 億円、ROE25% 以上、10 年後に目指す事業規模として、売上高 750 億円、営業利益 120 億円が掲げられており、今期予想 PER10 倍には、それが織り込まれている状況にないと想定される。
- ・ 継続的かつ安定した配当を行うことを基本方針とし、連結配当性向 30% 程度を目安としている配当利回りは 2.86% と、バリュエーションのみならず、配当も価格の下支え要因となる。

株式会社 JRC | 2025 年 4 月 25 日 (金)
6224 東証グロース市場 機械

■ 出演者

株式会社 JRC
代表取締役社長

浜口 稔様

会社概要



JRC 浜口

株式会社 JRC 代表取締役社長の浜口でございます。本日はお忙しいなか当社の通期決算説明会にご出席いただき、誠にありがとうございます。

それでは、4 月 14 日に公表しました資料に沿って、2025 年 2 月期通期決算の概要と、長期ビジョンを含む中期経営計画、ならびに 2026 年 2 月期の見通しについてご説明させていただきます。

2025 年 2 月期 通期決算説明資料 会社情報		JRC	
会社名	株式会社 JRC (英文社名: JRC Co., Ltd.)	発見を、発展へ Discovery to Development すべては現場を基本としたリアルから見出し、 まだお客様にない視点での課題の「発見」から、 不をなくすソリューションを通じて 「発展」(JRC・お客様・社会)へと繋げていく意志を 『発見を、発展へ』という 企業スローガンとして表明しています。	
本社所在地	大阪本社 大阪市西区阿波座 2-1-1 CAMCO 西本町ビル 6F 東京本社 神奈川県川崎市幸区大宮町 1310 ミューザ川崎セントラルタワー 24F		
代表者	代表取締役社長 浜口 聡		
創業	1961 年 4 月 (浜口商店 創業)		
設立	1991 年 3 月 (株式会社 JRC)		
資本金	131,415 千円 (2024 年 3 月 13 日現在)	すべては現場を基本としたリアルから見出し、 まだお客様にない視点での課題の「発見」から、 不をなくすソリューションを通じて 「発展」(JRC・お客様・社会)へと繋げていく意志を 『発見を、発展へ』という 企業スローガンとして表明しています。	
従業員	482 名 (連結) (2025 年 2 月未現在)		
事業内容	コンベヤ部品の設計・製造・販売及びコンベヤ設備の運用改善・メンテナンス 環境プラントのコンベヤを中心としたマテリアル機器の設計・製造・据付・メンテナンス ロボットを活用した自動設備などの設計・製造・販売		
グループ会社	JRC C & M 株式会社 向井化工機株式会社 (JRC C & M 子会社) 株式会社高橋汽機工業 吉艾希商事 (福岡) 貿易有限公司 JRC IFM Co., Ltd. (持分法適用関連会社)		
© JRC Co., Ltd.		2	

当社は大阪市に本社を置き、「発見を、発展へ」を企業スローガンとして、ニッチトップ・リカーリングなコンベヤ部品事業と、製造業としての経験やノウハウを活かしたロボット SI 事業の 2 つの事業を展開しております。

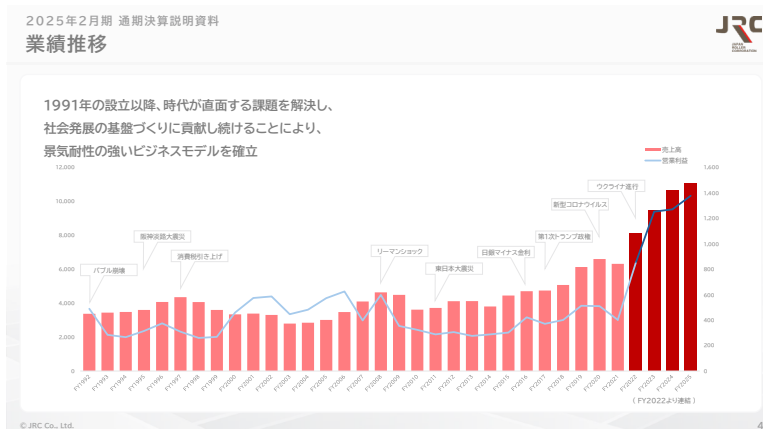
株式会社 JRC | 2025 年 4 月 25 日 (金)
6224 東証グロース市場 機械

会社概要



1961 年の創業以来、「お客様の課題を解決し、社会に貢献する」という考え方を貫き、顧客課題の発見と、その顧客課題に対するソリューションの提供を通じて事業を拡大してまいりました。

近年では、積極的に M&A を実施し、業容を拡大し続けております。



こちらは、当社の創業から現在までの業績の推移です。

これまで国内外において、様々な景況感のなかで事業を展開してまいりましたが、一貫して営業黒字を継続しており、景気耐性の強いビジネスモデルを確立しております。

株式会社 JRC | 2025 年 4 月 25 日 (金)
6224 東証グロース市場 機械

会社概要



2025 年 2 月期においては、事業セグメントの変更を行っております。

これまでコンベヤ事業に含まれておりました環境プラント向けソリューション事業が著しい成長を遂げていることから、経営管理区分の見直しを行い、報告セグメントごとの業績をより適切に反映させるために、「コンベヤ事業」から環境プラント向けソリューション事業を分離し、当社グループの新たな成長の柱として「環境プラント事業」を報告セグメントに新たに追加いたしました。



環境プラント事業は、ごみ処理施設、水処理施設、バイオマス発電施設の3領域を中心に、堅調に成長を続けています。

特に直近3年間は、M&Aの効果もあり、売上・営業利益ともに右肩上がり大きく拡大しています。

当社の強みである「設計・製作から据付・メンテナンスまで一貫対応可能な体制」により、官公庁案件などで高い信頼を得ており、今後もこの分野を成長ドライバーとして注力してまいります。

株式会社 JRC | 2025 年 4 月 25 日 (金)
6224 東証グロース市場 機械

会社概要

2025年2月期 業績予想
2025年2月期連結業績の見通し 【2024年4月12日公表内容】

	2023年 2月期末実績	2024年 2月期末実績	2025年2月期連結業績予想			前期比	
			上期	下期	通期	増減額	増減率
売上高	8,961	9,473	5,049	5,577	10,627	+1,153	+12.2%
コンベヤ部品事業	8,457	8,756	4,690	4,983	9,673	+916	+10.5%
ロボットSI事業	503	744	359	594	953	+209	+28.1%
売上総利益	3,023	3,213	1,810	2,014	3,824	+611	+19.0%
売上総利益率	33.7%	33.9%	35.8%	36.1%	36.0%	-	+2.3pt
営業利益	1,252	1,270	691	890	1,582	+311	+24.5%
コンベヤ部品事業	1,264	1,285	700	811	1,511	+226	+17.6%
ロボットSI事業	△12	1	△9	79	70	+68	-
営業利益率	14.0%	13.4%	13.7%	16.0%	14.9%	-	+1.5pt
経常利益	1,270	1,273	700	904	1,604	+330	+25.9%
当期純利益	830	847	462	606	1,069	+222	+26.3%

2025年2月期連結業績は、4期連続の増収増益に加え、増配を目指す

© JRC Co., Ltd. 7

なお、環境プラント事業の分離にともない、昨年4月12日に公表しましたセグメント収益に対し、次のページのとおり見直しを行いました。

2025年2月期 通期決算説明資料
2025年2月期事業計画 【コンベヤ事業から環境プラント事業を分離
セグメントに配分していた全社費用等を調整額として開示】

	2023年 2月期末実績	2024年 2月期末実績	2025年2月期事業計画			前期比	
			上期	下期	通期	増減額	増減率
売上高	8,961	9,473	5,049	5,577	10,627	+1,153	+12.2%
コンベヤ事業	8,457	7,249	3,926	3,774	7,700	+451	+6.2%
環境プラント事業	1,542	1,542	761	1,207	1,968	+426	+27.6%
ロボットSI事業	503	744	359	594	953	+209	+28.1%
調整額	△63	△63	△47	△52	△99	-	-
売上総利益	3,023	3,213	1,810	2,014	3,824	+611	+19.0%
売上総利益率	33.7%	33.9%	35.8%	36.1%	36.0%	-	+2.3pt
営業利益	1,252	1,270	691	890	1,582	+311	+24.5%
コンベヤ事業	1,264	1,669	995	896	1,891	+227	+13.7%
環境プラント事業	258	258	67	286	353	+105	+42.4%
ロボットSI事業	△12	1	△9	79	70	+68	-
調整額	△662	△662	△359	△372	△731	-	-
営業利益率	14.0%	13.4%	13.7%	16.0%	14.9%	-	+1.5pt
経常利益	1,270	1,273	700	904	1,604	+330	+25.9%
当期純利益	830	847	462	606	1,069	+222	+26.3%

© JRC Co., Ltd. 8

また、セグメントの分離に加え、管理費用の配分方法を見直すとともに、報告セグメントに配分していた費用の一部については、全社費用として「調整額」に含めて開示する方法に変更いたしました。

■ 2025 年 2 月期 通期決算概要、長期ビジョン、中期経営計画

2025年2月期 決算説明のポイント



ここからは、2025 年 2 月期通期決算についてご説明いたします。
まずは決算説明のポイントをご覧ください。

2025年2月期 通期決算説明資料 決算説明のポイント	
2025年2月期 実績	・ 堅調なコンベヤ事業、環境プラント事業・ロボットSI事業の成長+ M&A効果により、前期比で売上高+16.8%、営業利益+8.4%となり、4期連続の増収増益達成
コンベヤ事業	・ リプレイス案件増加、工事・メンテナンス拡大、価格改定効果による安定成長 ・ セグメント利益は前期・当期とも四半期20%以上で推移
環境プラント事業	・ 福島工場(旧東陽工業)に加え、向井化工機のグループインにより、関東方面への展開加速 ・ 2025年2月より環境プラント事業を独立セグメント化
ロボットSI事業	・ 食品・医薬業界を中心に、複合案件を獲得するとともにリピート案件が増加 ・ 下期より売上利益ともに高水準で推移、事業セグメントとして大きく成長
株主還元	・ 2025年2月期は年間26円(中間13円(実施済)、期末13円)の配当を予定

通期連結業績につきましては、堅調なコンベヤ事業を中心に、環境プラント事業やロボット SI 事業の成長、M&A 効果などにより、4 期連続の増収増益を達成いたしました。

コンベヤ部品事業では、安定的に成長するとともに、20% 以上の利益率で推移いたしました。

当期より独立セグメントとなった環境プラント事業では、従来からの高い成長性に加え、M&A 効果を余すところなく発揮できたと認識しております。

ロボット SI 事業では、上期に期ズレの影響を強く受けたものの、食品・医薬業界を中心に好調に推移いたしました。

株式会社 JRC | 2025 年 4 月 25 日 (金)
6224 東証グロース市場 機械

2025 年 2 月期 通期決算概要、長期ビジョン、中期経営計画

株主還元につきましては、2024 年 10 月に実施しました中間配当 1 株あたり 13 円に加え、期末 13 円の年間 26 円の配当を予定しております。

2025年2月期 通期決算概要



次に、2025 年 2 月期 通期決算の概要についてご説明いたします。



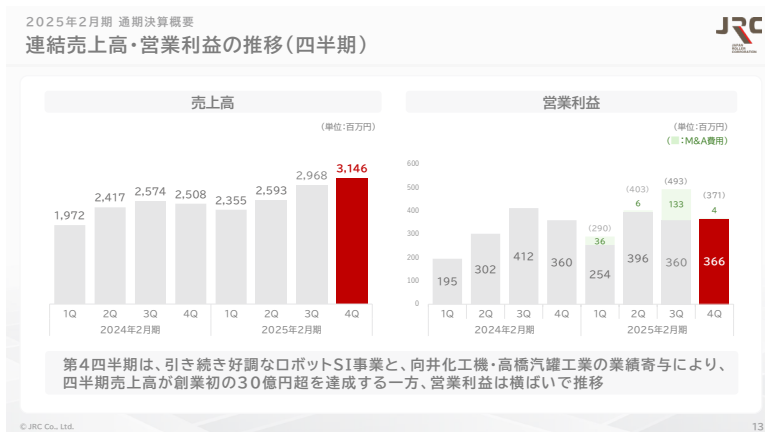
連結通期業績としましては、各事業ともに好調に推移したこと、M&A 効果の即効性もあり、売上高は前年比 16.8% 増加、営業利益は前年比 8.4% 増加となり、4 期連続の増収増益となりました。

なお、M&A 費用を除けば、営業利益は前年比 22.7% 増加の 15 億 5 千 9 百万円となり、オーガニックでも力強く成長いたしました。

また、達成率につきましても 98.6% となり、ほぼほぼ計画水準での着地となりました。

株式会社 JRC | 2025 年 4 月 25 日 (金)
6224 東証グロース市場 機械

2025 年 2 月期 通期決算概要、長期ビジョン、中期経営計画



第4四半期の連結業績につきましては、第3四半期から引き続き好調なロボットSI事業と、当社グループとなりました向井化工機ならびに高橋汽罐工業の業績寄与により、四半期売上高が創業初となる30億円超を達成いたしました。

2025 年 2 月期 通期決算概要
連結損益計算書

	2024年2月期					2025年2月期					前期比
	1Q	2Q	3Q	4Q	通期	1Q	2Q	3Q	4Q	通期	
売上高	1,972	2,417	2,574	2,508	9,473	2,355	2,593	2,968	3,146	11,064	+16.8%
売上総利益	652	784	909	867	3,213	829	957	1,126	1,085	3,999	+24.5%
売上総利益率	33.1%	32.4%	35.3%	34.6%	33.9%	35.2%	36.9%	38.0%	34.5%	36.1%	+2.2Pt
営業利益	195	302	412	360	1,270	254	396	360	366	1,378	+8.4%
営業利益率	9.9%	12.5%	16.0%	14.4%	13.4%	10.8%	15.3%	12.1%	11.7%	12.5%	△0.9Pt
経常利益	191	308	412	360	1,273	258	407	365	375	1,407	+10.5%
当期純利益	127	166	279	273	847	245	278	221	332	1,078	+27.3%
E B I T D A	251	359	470	421	1,502	311	457	424	434	1,627	+8.3%

© JRC Co., Ltd. 14

以上の結果、2025 年 2 月期の通期連結業績は、

売上高 110 億 6 千 4 百万円

営業利益 13 億 7 千 8 百万円

経常利益 14 億 7 百万円

当期純利益 10 億 7 千 8 百万円

となりました。

株式会社 JRC | 2025 年 4 月 25 日 (金)
6224 東証グロース市場 機械

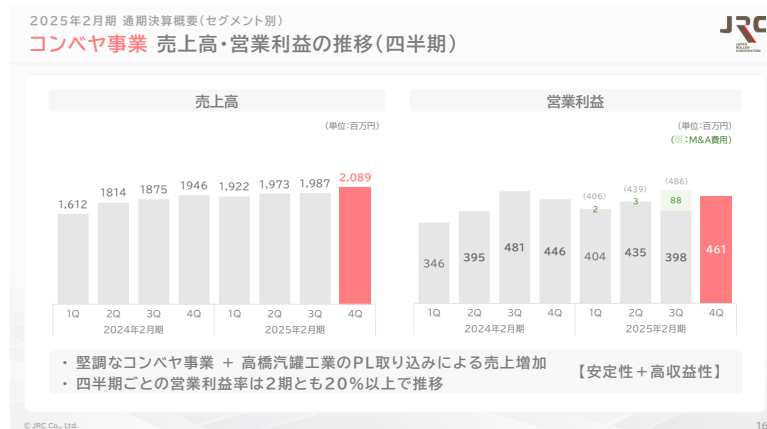
2025 年 2 月期 通期決算概要、長期ビジョン、中期経営計画



次に、セグメント別業績についてご説明いたします。

コンベヤ事業の通期業績につきましては、旺盛なリプレイス需要や工事・メンテナンスの拡大、また、下期からの価格改定効果などにより、売上高は 10.0% 増加の 79 億 7 千 2 百万円、営業利益は 1.8% 増加の 16 億 9 千 9 百万円となりました。

こちらも高橋汽罐工業の M&A 費用 9 千 3 百万円を除けば、営業利益は前年比 7.4% 増加の 17 億 9 千 3 百万円となり、営業利益率が 22.5% まで高まります。

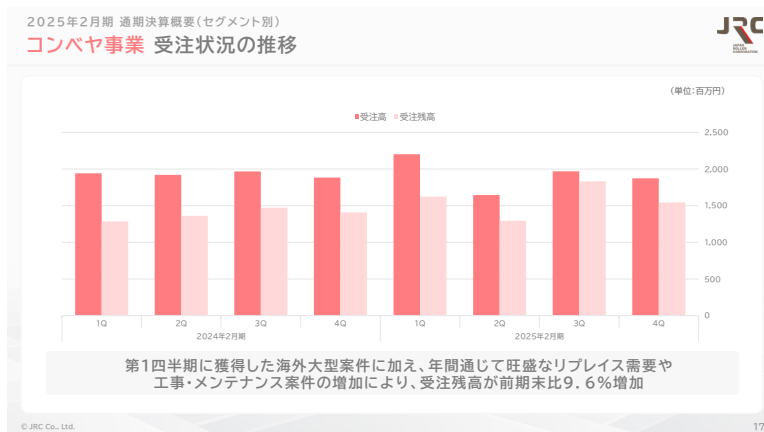


第 4 四半期の業績につきましては、堅調なコンベヤ事業に高橋汽罐工業が加わったことで、売上高は前年同期比 7.4% 増加の 20 億 8 千 9 百万円となりました。

なお、四半期ごとの営業利益率につきましては、前期、当期ともに 20% 以上で推移しており、安定性と高収益性の両立を実現しております。

株式会社 JRC | 2025 年 4 月 25 日 (金)
6224 東証グロース市場 機械

2025 年 2 月期 通期決算概要、長期ビジョン、中期経営計画



受注状況としましては、第1四半期に獲得しました海外大型案件に加え、年間通じて旺盛なリプレイス需要や高橋汽罐工業の工事案件やメンテナンス需要が増加するなど、前期末比の受注残高が 9.6% 増加いたしました。

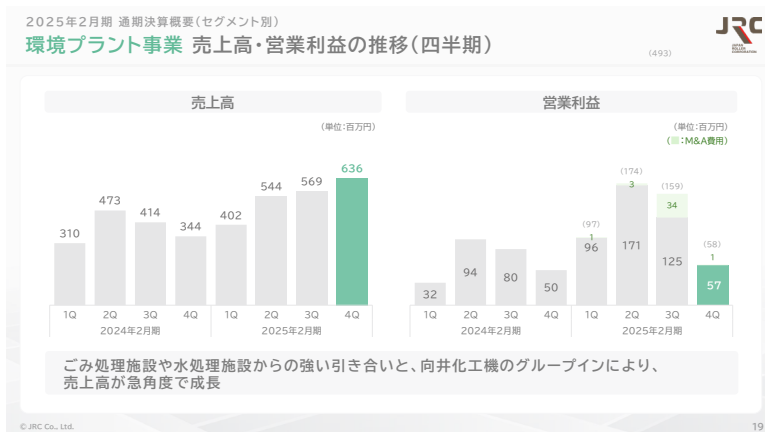


当期よりコンベヤ事業から分離しました環境プラント事業につきましては、福島工場に加え、神奈川県に位置する向井化工機が新たに当社グループに加わったことで、これまで展開しきれていなかった関東方面のユーザーに対しても、JRC グループとして積極的にアプローチすることができるようになりました。

その結果、売上高は前年比 39.6% 増加の 21 億 5 千 2 百万円、営業利益は前期比 75.1% 増加 4 億 5 千 1 百万円となりました。

株式会社 JRC | 2025 年 4 月 25 日 (金)
6224 東証グロース市場 機械

2025 年 2 月期 通期決算概要、長期ビジョン、中期経営計画



第 4 四半期の業績につきましては、ごみ処理施設や水処理施設からの強い引き合いにより、売上高が急角度で成長いたしました。



受注状況としましては、官公庁や大手企業など、年度予算に強く影響するユーザーが多いことから、受注の山谷が生じておりますが、通期では前期比で 45.8% 増加するなど、極めて強い受注環境であります。

また、期末受注残高が 20 億円超で推移するなど、今後のさらなる成長を支える事業に成長するものと期待しております。

株式会社 JRC | 2025 年 4 月 25 日 (金)
6224 東証グロース市場 機械

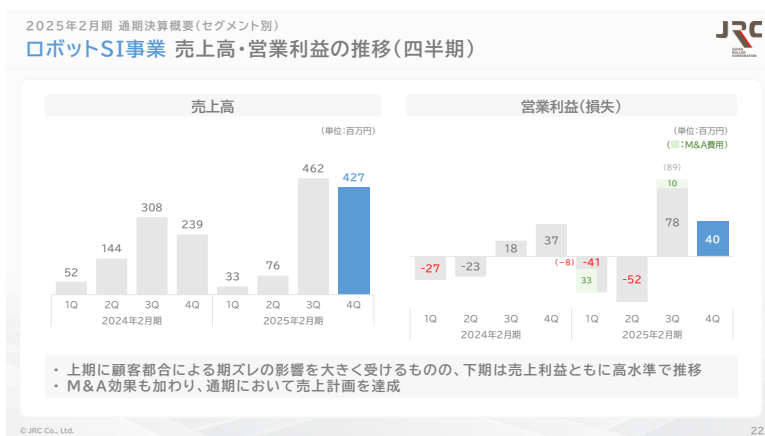
2025 年 2 月期 通期決算概要、長期ビジョン、中期経営計画



次に、ロボット SI 事業の通期業績につきましては、食品・医薬業界を中心に、複合案件を獲得するとともにリピート案件が増加し、プロダクトミックスの改善が進みました。

その結果売上高は前期比 34.2% 増加の 9 億 9 千 9 百万円、営業利益は前期比 378.3% 増加の 2 千 5 百万円となりました。

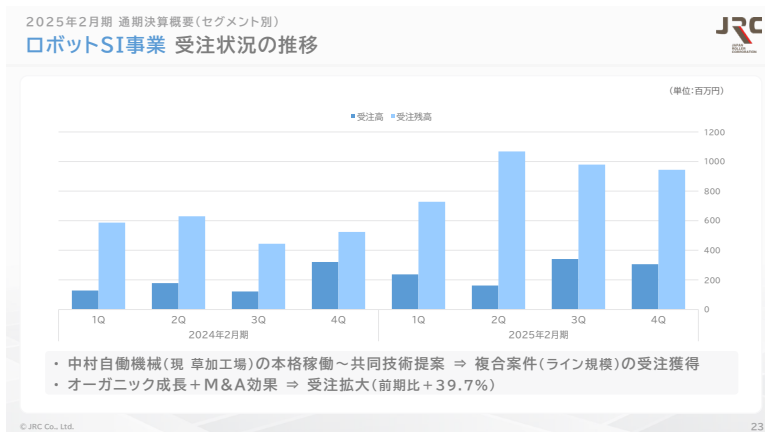
なお、M&A 費用を除くと営業利益が 6 千 9 百万円、計画比 99.2% となり、概ね計画達成となります。



上期には顧客都合による期ズレの影響を大きく受けましたが、下期は M&A 効果も加わり、売上利益ともに高水準で推移いたしました。

株式会社 JRC | 2025 年 4 月 25 日 (金)
6224 東証グロース市場 機械

2025 年 2 月期 通期決算概要、長期ビジョン、中期経営計画



受注状況としましては、食品・医薬業界からの強い自動化ニーズとこれまでの納入実績に基づくリピート案件の増加に加え、旧中村自働機械との共同技術提案により、複合案件の受注を獲得いたしました。

また、受注残高につきましても、引き続き高水準で推移しております。

2025 年 2 月期 通期決算概要 (セグメント別)
セグメント業績

セグメント	2024年2月期 通期	2025年2月期					前期比
		1Q	2Q	3Q	4Q	通期	
売上高	9,473	2,355	2,593	2,968	3,146	11,064	+16.8%
コンベヤ事業	7,249	1,922	1,973	1,987	2,089	7,972	+10.0%
環境プラント事業	1,542	402	544	569	636	2,152	+39.6%
ロボットSI事業	744	33	76	462	427	999	+34.2%
調整額	△63	△2	0	△51	△7	△60	
営業利益	1,270	254	369	360	366	1,378	+8.4%
(率)	13.4%	10.8%	15.3%	12.1%	11.7%	12.5%	△0.9Pt
コンベヤ事業	1,669	404	435	398	461	1,699	+1.7%
(率)	23.0%	21.0%	22.1%	20.0%	22.1%	21.3%	△1.7Pt
環境プラント事業	258	96	171	125	57	451	+75.1%
(率)	16.7%	24.1%	31.5%	22.1%	9.1%	21.0%	+4.3Pt
ロボットSI事業	5	△41	△52	78	40	25	+378.3%
(率)	0.7%	—	—	17.0%	9.6%	2.6%	+1.9Pt
調整額	△662	△205	△157	△242	△194	△799	

(単位: 百万円)

© JRC Co., Ltd. 24

なお、冒頭にご説明しましたとおり、報告セグメントに配分していた費用の一部については、全社費用として「調整額」に含めての計上となったことから、連結業績に対するセグメント収益はご覧のとおりとなりました。

株式会社 JRC | 2025 年 4 月 25 日 (金)
6224 東証グロース市場 機械

2025 年 2 月期 通期決算概要、長期ビジョン、中期経営計画

2025年2月期 通期決算概要
連結貸借対照表

(単位:百万円)

資 産	2024年2月末	2025年2月末	増減額	備 考
流動資産	6,332	7,455	+1,123	主な要因: 連結子会社増加による現金及び預金の増加
固定資産	3,722	5,558	+1,835	
有形固定資産	2,971	3,547	+575	主な要因: 連結子会社増加による増加
無形固定資産	151	708	+556	うち、のれん605百万円
投資その他の資産	599	1,302	+703	主な要因: 連結子会社増加による増加
資産合計	10,055	13,014	+2,959	
負 債				
流動負債	2,914	5,657	+2,743	主な要因: M&A資金調達のための短期借入金の増加
固定負債	3,343	2,742	△601	
負債合計	6,257	8,400	+2,142	
純資産				
純資産合計	3,797	4,614	+816	主な要因: 利益剰余金の増加(△配当、△SO行使、+当期利益)
自己資本比率	37.8%	35.4%	△2.4pt	

© JRC Co., Ltd. 25

次に、連結貸借対照表について、ご説明いたします。

総資産は、前連結会計年度末に比べて 29 億 5 千 9 百万円増加し、130 億 1 千 4 百万円となりました。これは主に、連結子会社の増加に伴う現金および預金の増加 9 億 7 千 8 百万円、有形固定資産 5 億 7 千 5 百万円の増加、投資その他の資産 7 億 3 百万円の増加によるものです。

負債は、前連結会計年度末に比べて 21 億 4 千 2 百万円増加し、84 億円となりました。これは主に、M&A 資金調達による短期借入金 16 億 1 千 7 百万円の増加によるものであります。

純資産は、前連結会計年度末に比べて 8 億 1 千 6 百万円増加し、46 億 1 千 4 百万円となりました。

以上の結果、自己資本比率は 2.4 ポイント減少し、35.4% となりました。

2025年2月期 通期決算概要
KPI実績

(単位:百万円)

		2024年 2月期 通期	2025年 2月期					計画	達成率
			1Q	2Q	3Q	4Q	通期		
全 社	売 上 高	9,473	2,355	2,593	2,968	3,146	11,064	10,627	104.1%
	営 業 利 益	1,270	254	396	360	366	1,378	1,582	87.1%
	営 業 利 益 率	13.4%	10.8%	15.3%	12.1%	11.7%	12.5%	14.9%	△2.4Pt
コンパネ事業	ソリューション 売 上 高	1,483	456	326	350	368	1,503	1,656	90.8%
	ソリューション 売 上 高 比 率	21.1%	24.0%	16.9%	18.4%	20.6%	20.0%	23.0%	△3.0Pt
ロボットSI事業	受 注 高	748	237	161	284	305	987	1,200	82.3%
	営 業 利 益	1	△41	△52	78	40	25	70	36.5%

© JRC Co., Ltd. 26

2025 年 2 月期の KPI 計画に対する実績につきましては、連結売上高以外、残念ながら未達となりました。

とりわけソリューションにつきましては、昨夏の長期に渡る酷暑により、現場の稼働率が低下したことで、十分なソリューション提案ができなかったことが主な要因であります。

長期ビジョン



ここからは、当社が描く「長期ビジョン」についてご説明いたします。

10 年後を見据えた事業構想と、目指す企業像について、定量・定性の両面からお伝えしてまいります。



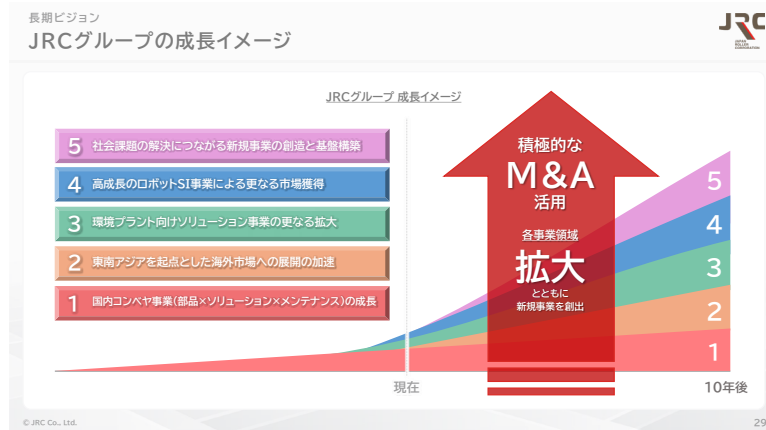
JRC グループは、10 年後に売上 750 億円・営業利益 120 億円・営業利益率 16% という目標を掲げ、持続的な成長を目指します。

国内ではコンベヤ分野での圧倒的な存在感を維持しつつ、海外展開や環境・ロボット SI といった成長領域の強化を進めてまいります。

さらに、新規事業を創出し、社会課題の解決に貢献するトータルソリューションプロバイダーを目指してまいります。

株式会社 JRC | 2025 年 4 月 25 日 (金)
6224 東証グロース市場 機械

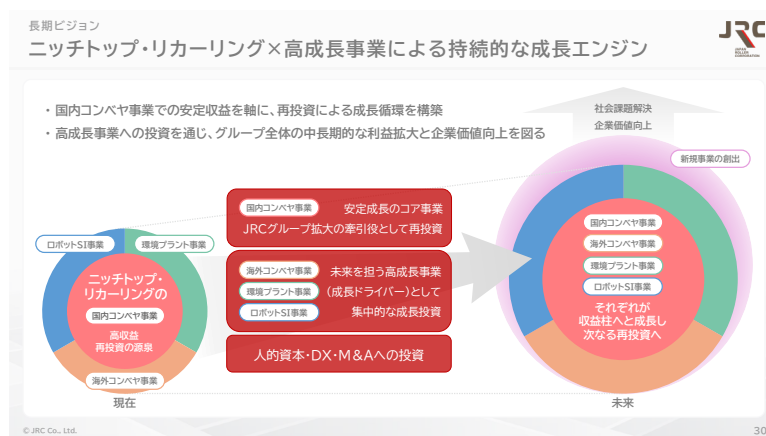
2025 年 2 月期 通期決算概要、長期ビジョン、中期経営計画



こちらのスライドは、JRC グループが 10 年後に向けて描く成長シナリオを示しています。

国内のコンベヤ事業では、「部品×ソリューション×メンテナンス」の三位一体による強みをさらに磨き上げるとともに、海外市場では東南アジアを起点に JRC ブランドの展開を強化します。

また、環境プラントやロボット SI 事業といった高成長分野にも注力し、M&A も活用しながら、社会課題の解決につながる新規事業を創出していきます。



当社の成長戦略の根幹は、リカーリング収益を生む国内コンベヤ事業による安定収益を基盤とし、その利益を高成長事業へ再投資していくモデルです。

ロボット SI、環境プラント、そして海外事業は、今後のグループ成長を牽引するエンジンとして、集中投資を行ってまいります。

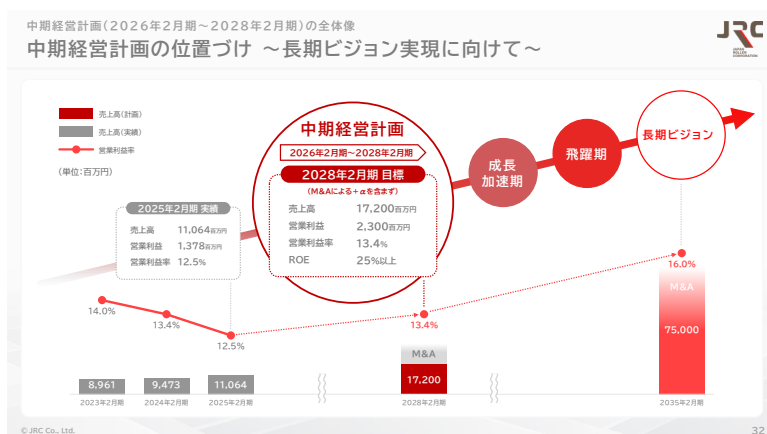
各事業がそれぞれ収益柱へと成長し、さらに次の成長へ再投資されるという「成長の循環構造」を構築し、中長期での企業価値向上を目指してまいります。

中期経営計画



ここからは中期経営計画のご説明に移ります。

本中計は、2026 年 2 月期から 2028 年 2 月期までの 3 年間を対象としています。



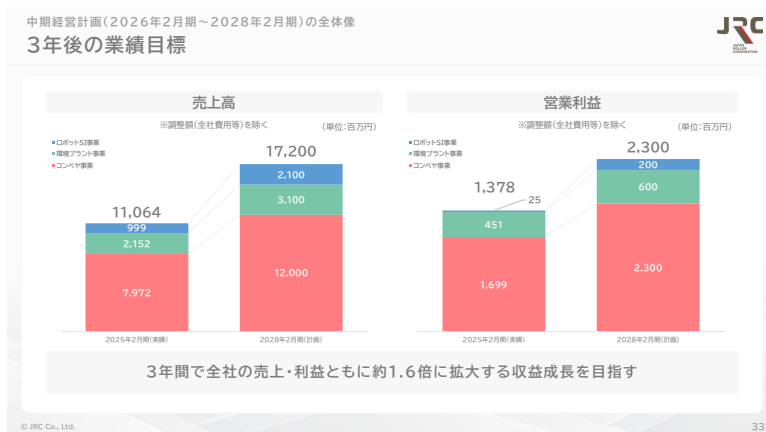
中計最終年度である 2028 年 2 月期には、売上高 172 億円、営業利益 23 億円、営業利益率 13.4%、そして ROE25% 以上の達成を目指します。

2025 年 2 月期の実績と比較すると、売上・利益ともに大きな伸びを計画しており、特に収益性を伴う成長に重点を置いています。

M&A による上乗せはこの数値には含んでおらず、あくまでオーガニック成長に基づく堅実な計画となっています。

株式会社 JRC | 2025 年 4 月 25 日 (金)
6224 東証グロース市場 機械

2025 年 2 月期 通期決算概要、長期ビジョン、中期経営計画



各セグメントごとの売上と営業利益の計画です。

コンベヤ、環境プラント、ロボット SI のいずれの事業も大きく成長し、3 年間で連結では売上・利益ともに約 1.6 倍の拡大を見込んでおり、全体でバランスの取れた成長を目指しています。

それぞれの市場特性や成長ドライバーを活かしながら、事業ポートフォリオ全体としての収益性を底上げしてまいります。

中期経営計画(2026年2月期～2028年2月期)の全体像
中長期的な成長戦略を支える大方針と5つの基本方針

大方針	持続可能な成長戦略を加速し、資本効率を高める経営を目指す
1 事業戦略	・ 3事業セグメントの強化とM&A推進により、収益力と成長の最大化を目指す
2 財務戦略・資本政策	・ 資本効率を高めながら企業価値の最大化を目指す
3 人的資本強化	・ 人的資本へ投資を行い、個人価値及び企業価値の向上を通じて社会価値の向上を目指す
4 DX戦略	・ DXを経営戦略に組み込み、収益性・資本効率・意思決定力を高め、企業価値向上を目指す
5 サステナビリティ	・ 「持続可能な社会の実現」と「中長期的な企業価値の向上」の両立を目指す

当社の中期経営計画は、持続可能な成長戦略の実現と資本効率の最大化を両立させることを目的としています。

その実現のために、5 つの重点方針を掲げています。

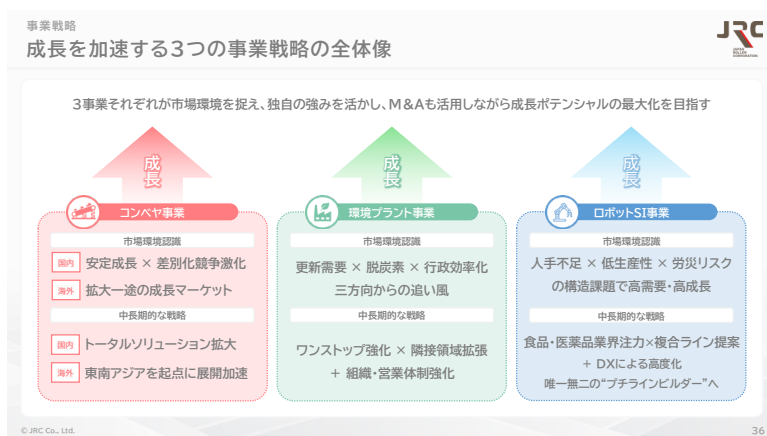
事業戦略では、3 事業セグメントの強化と M&A 推進による成長加速、財務・資本政策では資本効率を高める体制整備、そして人的資本・DX・サステナビリティを全社横断的に推進することで、企業価値の継続的な向上を図ってまいります。

■ 事業概略、財務戦略・資本政策、 人的資本強化

事業戦略



それでは、当社の事業戦略についてご説明いたします。

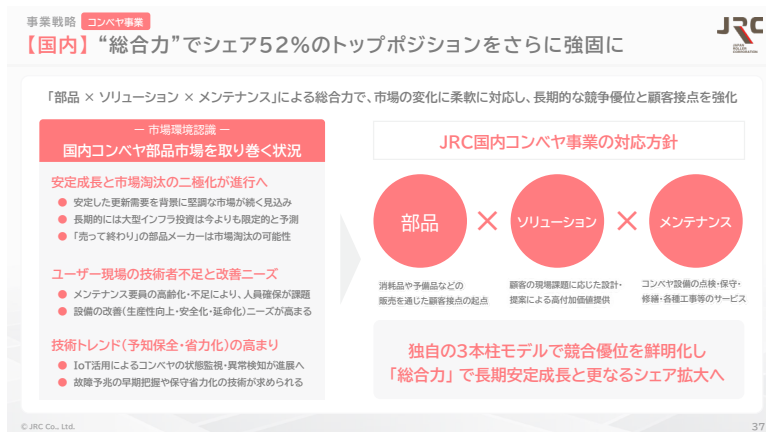


当社は、コンベヤ・環境プラント・ロボット SI という 3 事業において、それぞれに最適な成長戦略を展開しています。

それぞれの市場環境を正しく捉えたうえで、独自の強みとポジショニングを活かし、M&A も活用することで、成長ポテンシャルを最大化してまいります。

株式会社 JRC | 2025 年 4 月 25 日 (金)
6224 東証グロース市場 機械

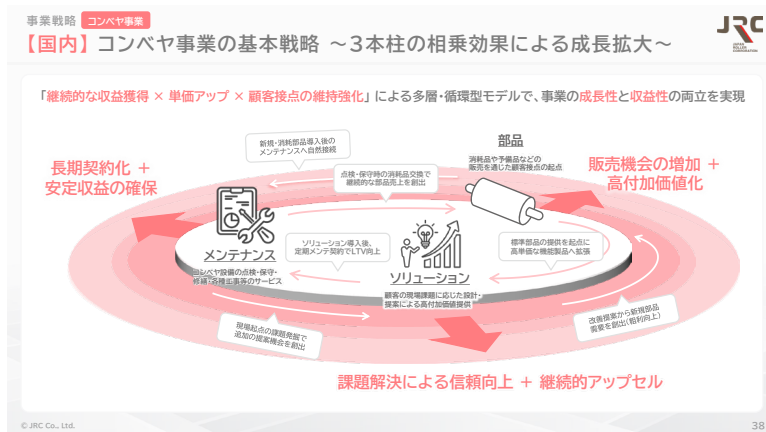
事業概略、財務戦略・資本政策、人的資本強化



国内コンベヤ市場は、更新需要に支えられた安定成長が続く一方、市場構造の変化と人手不足といった課題が存在します。

当社は、「部品」「ソリューション」「メンテナンス」の3本柱を軸とした総合力を活かし、競合との差別化を明確化します。

技術者不足や省力化ニーズに応える体制を構築することで、顧客との接点を深め、長期的な収益基盤を築いてまいります。



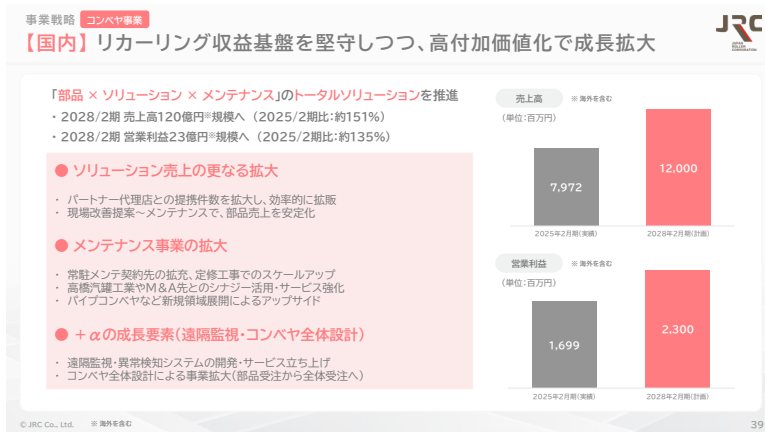
コンベヤ事業では、部品販売からソリューション提案、そしてメンテナンス契約へとつながる多層的なモデルを構築してまいります。

消耗品の継続販売によるリカーリング収益に加え、現場改善提案による高付加価値化、さらに定期メンテナンスによる LTV 向上といった形で、収益性と安定性を両立しています。

単発の取引にとどまらず、長期的な信頼関係をベースとしたビジネスモデルの強化を進めてまいります。

株式会社 JRC | 2025 年 4 月 25 日 (金)
6224 東証グロース市場 機械

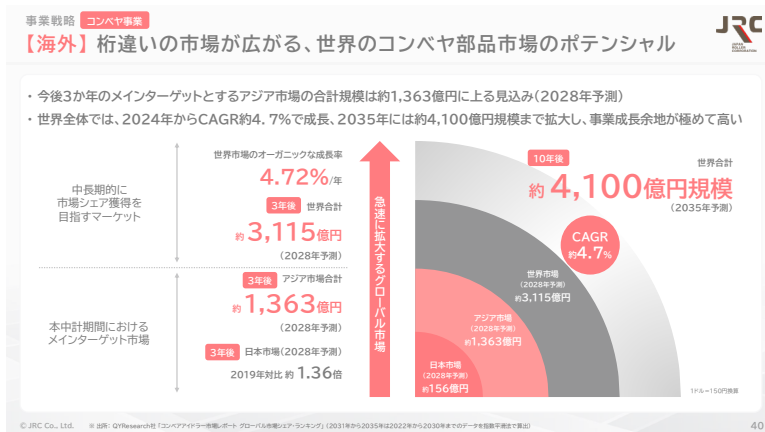
事業概略、財務戦略・資本政策、人的資本強化



今後は、ソリューション提案の拡充とメンテナンス事業の深化に加え、新領域である遠隔監視やコンベヤ全体設計にも取り組みます。

ソリューションパートナー代理店との提携拡大や、M&A 先とのシナジー活用を通じ、案件の大型化・高単価化を推進。

これらの取り組みにより、国内コンベヤ事業の売上は 2025 年比で約 51% 増、120 億円規模へと成長させてまいります。



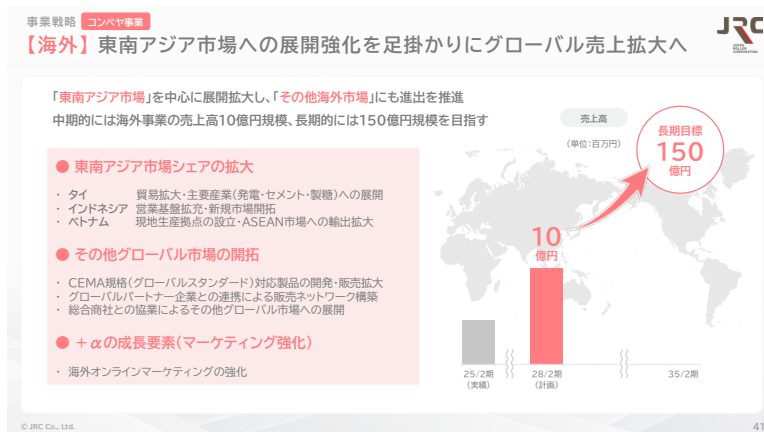
当社が注目するコンベヤ部品市場は、国内市場に比べて桁違いのスケールがあります。

特にアジア市場は、2028 年時点で 1,300 億円超、世界全体では 3,100 億円規模が予測されており、CAGR 約 4.7% で成長を続けています。

2035 年には約 4,100 億円まで拡大する見通しであり、JRC としては、この拡大するグローバル市場に対して着実にシェアを広げていくことで、長期的な成長を確実に取り込んでいきます。

株式会社 JRC | 2025 年 4 月 25 日 (金)
6224 東証グロース市場 機械

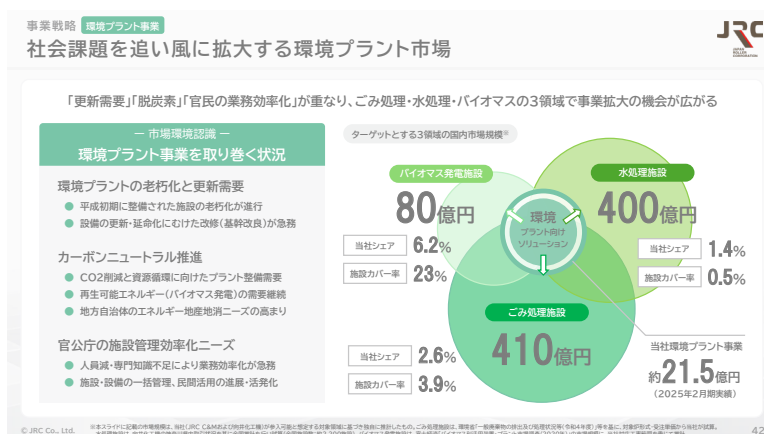
事業概略、財務戦略・資本政策、人的資本強化



具体的な施策としては、まず東南アジア市場に注力します。

タイでは貿易拡大と発電・セメント・製糖といった主要産業への展開、インドネシアでは営業基盤の拡充、ベトナムでは現地生産体制の構築など、国ごとの戦略を強化しています。

さらに、CEMA 規格対応製品の開発や、グローバルパートナーとのネットワーク構築、総合商社との連携も進めており、2028 年には海外売上 10 億円、長期的には 150 億円を目指してまいります。



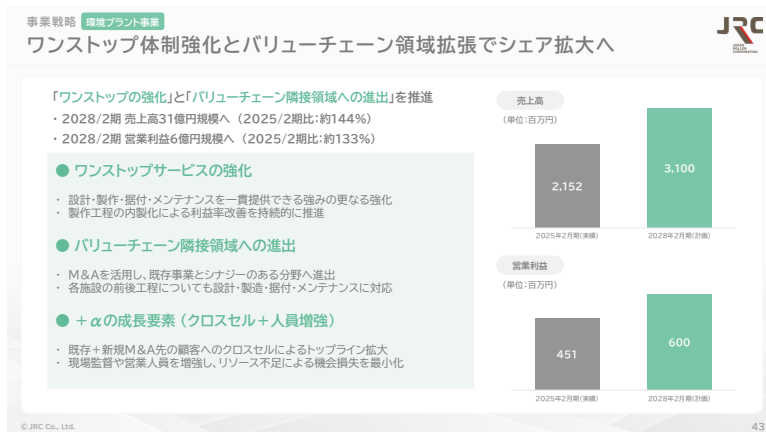
環境プラント市場は、今まさに構造的な更新需要と社会課題によって成長機会が拡大しています。

平成初期に整備されたごみ処理・水処理施設の老朽化により、更新ニーズが急速に高まり、また、脱炭素や自治体の業務効率化といった流れが後押しとなっています。

当社のシェアや施設カバー率は概ね数パーセント台にとどまっており、今後のシェア拡大の余地は極めて大きいと捉えています。

株式会社 JRC | 2025 年 4 月 25 日 (金)
6224 東証グロース市場 機械

事業概略、財務戦略・資本政策、人的資本強化

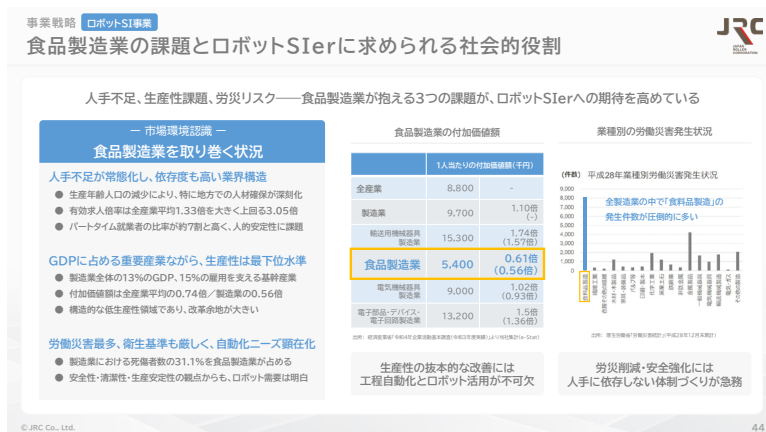


当社の環境プラント事業においては、設計・製作・据付・メンテナンスまでを一貫対応できる体制が最大の強みです。

このワンストップ体制をさらに強化することで、顧客であるプラントメーカー各社、ひいてはその先の自治体や官公庁からの信頼をより高め、選ばれる存在になることを目指します。

また、M&A を通じて前後工程を含むバリューチェーン領域への拡張にも取り組み、顧客単価と市場シェアの同時拡大を狙ってまいります。

売上目標は 2025 年比で約 1.4 倍、31 億円規模を目指しています。



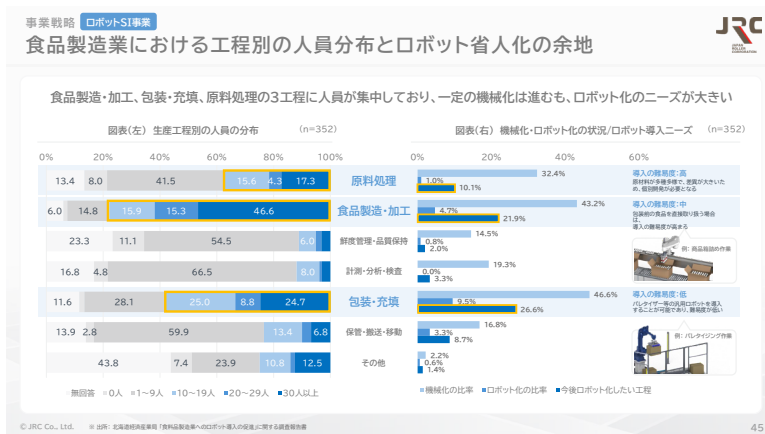
ロボット SI 事業は、社会的ニーズの高まりを背景に大きな成長可能性を秘めています。

特に食品製造業では、人手不足、生産性の低さ、そして労災リスクという 3 つの構造的課題を抱えており、ロボットによる工程自動化が強く求められています。

株式会社 JRC | 2025 年 4 月 25 日 (金)
6224 東証グロース市場 機械

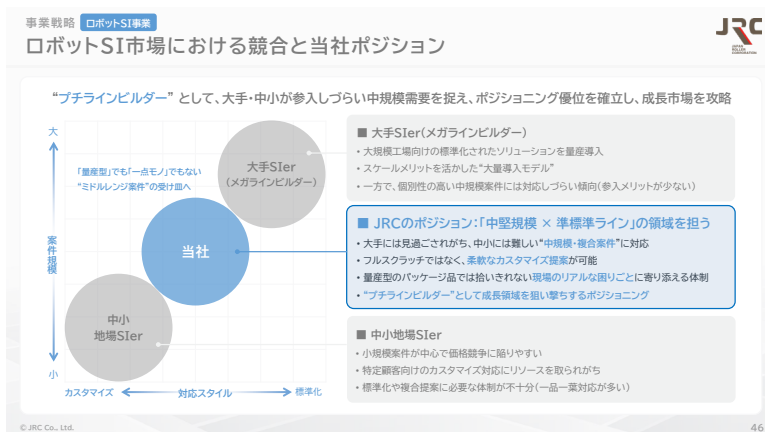
事業概略、財務戦略・資本政策、人的資本強化

当社はこうした社会課題に応える存在として、食品・医薬品領域を中心にロボットソリューションの提供を拡大し、業界全体の変革に貢献していきます。



食品製造業では、特に「原料処理」「製造・加工」「包装・充填」の3工程に人員が集中しています。その一方で、ロボット化の比率はまだ低く、現場からは「今後ロボット化したい」という強いニーズが表れています。

当社は、導入の難易度や工程特性をふまえた最適な提案で、この未開拓ゾーンに対して柔軟に対応し、付加価値の高い自動化を実現してまいります。



ロボット SI 市場は、大手の「メガラインビルダー」と、地場の中小 Sier に二極化しています。

当社はその中間領域、すなわち「中規模で柔軟なカスタマイズを求める案件」に特化した“ブチラインビルダー”として、独自のポジションを確立しています。

大手が見過ごしやすく、中小では対応が難しいこの領域で、当社は柔軟性と提案力を武器に着実に実績を積み重ねております。

株式会社 JRC | 2025 年 4 月 25 日 (金)
6224 東証グロース市場 機械

事業概略、財務戦略・資本政策、人的資本強化



当社は従来の単品装置の受注スタイルから脱却し、複数の工程を一括で提案する「複合ライン提案」へと戦略を転換しています。

これにより、提案範囲の広がりと同時に、受注単価の上昇、顧客価値の最大化、そして競争優位性の確保を実現しています。

今後は、ライン全体の最適化ニーズに応えるトータルソリューション提供企業として、業界内でのプレゼンスをさらに高めてまいります。



今後の重点施策として、食品・医薬品分野への注力を継続し、複合ラインの提案力をさらに磨いてまいります。

さらに、DX 技術と組み合わせた高度な自動化ソリューションを提供することで、顧客の課題解決力を飛躍的に高めます。

こうした取り組みにより、ロボット SI 事業の売上は 2025 年比で 2.1 倍、21 億円規模への成長を見込んでおります。

株式会社 JRC | 2025 年 4 月 25 日 (金)
6224 東証グロース市場 機械

事業概略、財務戦略・資本政策、人的資本強化

事業戦略
3事業のM&A戦略

企業ミッション
時代が直面する課題を解決し、社会発展の基盤づくりに貢献するソリューションを創造しつづける。

事業セグメント	【3事業共通のM&A目的】 持続的な企業価値の向上と非連続的な成長の実現	
	目指す姿	主な目的
コンベヤ事業	コンベヤ搬送領域だけでなく その周辺領域も含めた トータルソリューションの提供能力の拡大	- コンベヤ搬送及び周辺領域の技術・ノウハウの獲得 - 工事・メンテナンス業務領域の取り込み - 設計・生産能力・エリアの拡大
環境プラント事業	ワンストップ体制と隣接領域を含めた トータルエンジニアリングの強化	- 設計・製作・据付・メンテナンスのワンストップ体制強化 - バリューチェーン隣接領域の取り込み - 設計・生産能力・エリアの拡大
ロボットSI事業	拡販可能な技術を有する ロボット関連企業を対象とした ロボット自動化コンソーシアムの形成	- 自動化技術・ノウハウの獲得 - 既存顧客との強い関係性(リピート)の強化 - 標準化・拡販可能な案件の拡大

© JRC Co., Ltd. 49

JRC グループでは、M&A を「非連続的な成長を実現するための戦略的手段」と位置づけています。

各事業において、既存領域の強化と隣接領域への拡張を図るとともに、持続的な企業価値の向上を目的としています。

コンベヤ事業では搬送周辺の技術や工事領域を、環境プラントではバリューチェーン全体を、ロボット SI ではロボット自動化コンソーシアムの形成を意図した M&A を進めており、今後も積極的に活用してまいります。

財務戦略・資本政策



続いて、当社の財務戦略および資本政策についてご説明いたします。

成長投資と資本効率の両立をどのように図っているか、その基本的な考え方をご紹介します。

株式会社 JRC | 2025 年 4 月 25 日 (金)
6224 東証グロース市場 機械

事業概略、財務戦略・資本政策、人的資本強化



当社は、ROE25% 以上という高水準の維持を目指しており、収益性・資産効率・財務レバレッジの3つの観点から継続的に改善を図っています。

特に今後は、事業別の資産効率管理や、運転資本の最適化、不要資産の圧縮などを通じて、実効性ある経営指標の向上に取り組んでいきます。

初年度となる2026年2月期は一時的にROEが下がる見通しですが、中計期間を通じてしっかりと回復軌道に乗せてまいります。



中計3年間では、合計で40億円以上のキャッシュフロー創出を見込んでいます。

安定した国内コンペ事業の収益をペースに、成長事業や人的資本、DXなどへの再投資を実行しつつ、M&Aについては必要に応じて借入を活用する方針です。

また、株主還元についても、配当性向30%を基本方針として安定的な還元を継続してまいります。

人的資本強化



続いて、「人的資本経営」についてご説明いたします。



当社では、中長期的な社会価値の向上のため、「経営戦略と人事戦略の連動」による企業価値向上と、「社員幸福度の追求」による個人価値の向上の両面の視点から、人的資本強化を推進しています。

制度面・風土面の両面から継続的な取り組みを行うべく、5つの重要施策を挙げております。

株式会社 JRC | 2025 年 4 月 25 日 (金)
6224 東証グロース市場 機械

事業概略、財務戦略・資本政策、人的資本強化

人的資本強化
「人的資本強化」の取り組み内容

中長期の企業価値向上に向けて、人的資本への継続的な投資と制度改革を推進し、“選ばれ・活かされ・育つ”組織を実現

重要施策	具体的な取り組み
従業員エンゲージメントの向上	- 多様な働き方の実現 - フレキシブルなキャリア形成支援 - 成果や貢献度に応じたインセンティブ制度の導入
採用戦略の強化および人材教育体系の整備	- 採用方法の多様化と採用ブランディングの強化 - 人材育成体系の構築・運用 - 中核人材の早期選抜と若手社員の活躍推進
人事評価制度の再構築	- 公正・透明な評価プロセスの構築 - 挑戦機会を創出する等級制度の導入
社員のリスキリング施策の実施	- 自己成長と会社業績に基づく賞金制度への改革 - 自律的なキャリア開発の推進 - DX人材(デジタル人材)育成 - キャリアサポート体制の確立
女性管理職比率の向上	- 男女間給与格差の是正 - 男性育児休業取得促進 - 女性活躍推進(採用・福利厚生・働き方)

© JRC Co., Ltd. 55

具体的には、以下の5つの領域に注力しています。

1つ目は、従業員エンゲージメントの向上。柔軟な働き方やキャリア形成支援を通じ、働きがいを高めます。

2つ目は、採用戦略と教育体系の強化。人材の獲得と育成を一体的に進めています。

3つ目は、公正な人事評価制度の再構築。挑戦を促し、成果を正に評価します。

4つ目は、社員のリスキリング。デジタル人材の育成を含め、自律的なキャリア開発を支援しています。

そして5つ目は、多様性の推進。特に女性管理職比率の向上を重要テーマとしています。

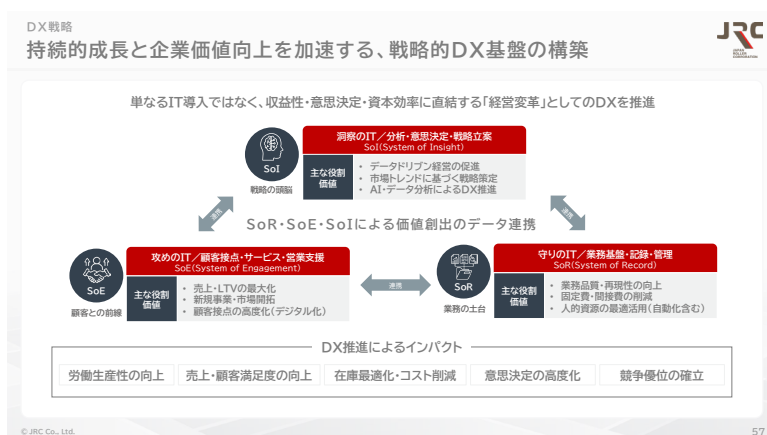
これらの施策を通じ、人的資本を戦略的に活用してまいります。

■ DX 戦略、サステナビリティ

DX戦略



続いて、「DX 戦略」についてご説明いたします。



当社では DX を単なる IT 導入にとどまらず、経営の根幹を変革する経営戦略そのものとして位置づけています。

「攻め」「守り」「洞察」の 3 層構造で展開しています。

SoE、SoR、SoI、これらを統合し、データドリブン経営を推進することで、業務効率の向上や意思決定の迅速化に加え、新たな価値創出にもつなげていく考えです。

サステナビリティ



続いて、「サステナビリティ」についてご説明いたします。



JRC のサステナビリティ基本方針は、「世の中の不をなくす」という企業理念をベースに構成されています。

事業を通じた社会課題の解決を出発点とし、中期経営計画や年次方針と連動させながら、実効性のある活動を継続しています。

当社にとってサステナビリティは、事業成長そのものと表裏一体であり、社会的責任を果たしながら企業競争力を高める取り組みでもあります。

株式会社 JRC | 2025 年 4 月 25 日 (金)
6224 東証グロース市場 機械

DX 戦略、サステナビリティ



具体的な取り組みとして、当社では「8つのマテリアリティ（重要課題）」を特定しています。

これには、各マテリアリティごとに目指す状態を明確に設定し、日々の事業活動に組み込むことで、環境・社会・企業価値の同時向上を図ってまいります。

2026 年 2 月期 連結業績予想

2026年2月期 連結業績予想

次に、2026 年 2 月期 連結業績予想についてご説明いたします。

2026年2月期 連結業績予想
2026年2月期連結業績の見通し

	2024年 2月期実績	2025年 2月期実績	2026年2月期連結業績予想			(単位:百万円)	
			上期	下期	通期	増減額	増減率
売上高	9,473	11,064	6,336	7,326	13,663	+2,599	+23.5%
コンベヤ事業	7,249	7,972	4,572	4,887	9,460	+1,487	+18.7%
環境プラント事業	1,542	2,152	1,043	1,602	2,645	+492	+22.9%
ロボットSI事業	744	999	748	872	1,621	+623	+62.6%
調整額	△63	△60	△49	△50	△100		
売上総利益	3,213	3,999	2,120	2,572	4,693	+694	+17.4%
売上総利益率	33.9%	36.1%	33.5%	35.1%	34.4%	-	△1.7pt
営業利益	1,270	1,378	617	1,111	1,728	+350	+25.5%
コンベヤ事業	1,669	1,699	960	1,154	2,115	+418	+24.7%
環境プラント事業	258	451	111	341	452	0	+0.2%
ロボットSI事業	1	25	19	54	73	+48	+194.4%
調整額	△662	△799	△474	△438	△912		
営業利益率	13.4%	12.5%	9.7%	15.2%	12.7%	-	+0.2pt
経常利益	1,273	1,407	602	1,111	1,713	+306	+21.8%
当期純利益	847	1,078	365	781	1,147	+68	+6.4%

2026 年 2 月期の連結業績は

売上高 136 億 6 千 3 百万円

営業利益 17 億 2 千 8 百万円

経常利益 17 億 1 千 3 百万円

当期純利益 11 億 4 千 7 百万円

とし、中期経営計画初年度として 5 期連続の増収・増益を目指します。

セグメント別業績につきましては

コンベヤ事業では

売上高 94 億 6 千万円

営業利益 21 億 1 千 5 百万円

株式会社 JRC | 2025 年 4 月 25 日 (金)
6224 東証グロース市場 機械

2026 年 2 月期 連結業績予想

環境プラント事業では、

売上高 26 億 4 千 5 百万円
営業利益 4 億 5 千 2 百万円

ロボット SI 事業では

売上高 16 億 2 千 1 百万円
営業利益 7 千 3 百万円

とし、それぞれの事業においても過去最高の収益を目指します。

2026 年 2 月期 連結業績予想
KPI 計画

(単位: 百万円)

		2024 年 2 月期		2025 年 2 月期		達成率	2026 年 2 月期
		実績	計画	実績			計画
全 社	売 上 高	9,473	10,627	11,064	104.1%		13,663
	営 業 利 益	1,270	1,582	1,378	87.1%		1,728
	営 業 利 益 率	13.4%	14.9%	12.5%	△2.4Pt		12.7%
	R O E	23.4%	—	25.7%	—		22.8%
コ ン パ ヤ 事 業	ソリューション 売 上 高	1,483	1,656	1,503	90.8%		1,691
	ソリューション 売 上 高 比 率	21.1%	23.0%	20.0%	△3.0Pt		22.6%
環 境 プ ラ ン ト 事 業	受 注 高	1,629	—	2,376	—		3,100
	営 業 利 益	264	—	489	—		452
ロ ボ ッ ト S I 事 業	受 注 高	748	1,200	1,045	87.1%		1,600
	営 業 利 益	1	70	25	36.5%		73

© JRC Co., Ltd. 63

2026 年 2 月期の KPI につきましては、ROE 計画や環境プラント事業を加えるとともに、引き続きチャレンジングな目標を設定のうえ、力強い成長を目指します。

2026 年 2 月期 連結業績予想
株主還元

基本方針・配当予想

当社は、株主に対する利益還元を経営上の重要課題の一つと認識し、将来の事業展開と経営体質の強化のために必要な内部留保を確保しつつ、継続的かつ安定した配当を行うことを基本方針とし、連結配当性向30%程度を目安に配当の実施を目指しております。この方針に基づき、剰余金の配当は期末配当の年1回の実施としておりますが、中長期的な株主価値の向上を図る観点から、株主の皆様への利益還元への機会の一層の充実を図るため、2025年2月期より、剰余金の配当を中間配当と期末配当の年2回の実施とすることといたしました。

以上のことから、2025年2月期の期末配当金につきましては、1株当たり13円(※)を予定しております。従いまして、中間配当金1株当たり13円を加えた当期の年間配当金は、1株当たり26円(※)となる予定です。

2026年2月期の配当金につきましては、1株当たり中間13円、期末14円の年間27円を予定しております。

	2025 年 2 月期			2026 年 2 月期		
	中間(実績)	期末(予想)	年間(予想)	中間(予想)	期末(予想)	年間(予想)
1 株 当 たり 配 当 金	13円	13円(※)	26円(※)	13円	14円	27円
配 当 性 向	—	—	29.6%	—	—	29.3%

※ 2025年5月28日開催の第34期定時株主総会決議により確定します。

© JRC Co., Ltd. 64

最後に、株主還元についてご説明いたします。

2025 年 2 月期につきましては、2024 年 10 月に実施しました中間配当 1 株あたり 13 円に加え、期末 13 円の年間 26 円の配当を予定しております。

株式会社 JRC | 2025 年 4 月 25 日 (金)
6224 東証グロース市場 機械

2026 年 2 月期 連結業績予想

2026 年 2 月期につきましては、継続的かつ安定した配当を行う基本方針のもと、引き続き、連結配当性向 30% 程度を目安に、中間配当 1 株あたり 13 円、期末配当 14 円の年間 27 円を予定し、5 期連続の増収増益に加え、増配を目指します。

説明は以上になります。

ご清聴、ありがとうございました。

重要事項（ディスクレマー）

株式会社フィスコ（以下「フィスコ」という）は株価情報および指数情報の利用について東京証券取引所・大阪取引所・日本経済新聞社の承諾のもと提供しています。

本レポートは、あくまで情報提供を目的としたものであり、投資その他の行為および行動を勧誘するものではありません。

本レポートはフィスコが信頼できると判断した情報をもとにフィスコが作成・表示したもののですが、フィスコは本レポートの内容および当該情報の正確性、完全性、的確性、信頼性等について、いかなる保証をするものではありません。

本レポートに掲載されている発行体の有価証券、通貨、商品、有価証券その他の金融商品は、企業の活動内容、経済政策や世界情勢などの影響により、その価値を増大または減少することもあり、価値を失う場合があります。本レポートは将来のいかなる結果をお約束するものでもありません。お客様が本レポートおよび本レポートに記載の情報をいかなる目的で使用する場合においても、お客様の判断と責任において使用するものであり、使用の結果として、お客様になんらかの損害が発生した場合でも、フィスコは、理由のいかんを問わず、いかなる責任も負いません。

本レポートは、対象となる企業の依頼に基づき、企業への電話取材等を通じて当該企業より情報提供を受けて作成されていますが、本レポートに含まれる仮説や結論その他全ての内容はフィスコの分析によるものです。本レポートに記載された内容は、本レポート作成時点におけるものであり、予告なく変更される場合があります。フィスコは本レポートを更新する義務を負いません。

本文およびデータ等の著作権を含む知的所有権はフィスコに帰属し、フィスコに無断で本レポートおよびその複製物を修正・加工、複製、送信、配布等することは堅く禁じられています。

フィスコおよび関連会社ならびにそれらの取締役、役員、従業員は、本レポートに掲載されている金融商品または発行体の証券について、売買等の取引、保有を行っているまたは行う場合があります。

以上の点をご了承の上、ご利用ください。

■お問い合わせ■

〒107-0062 東京都港区南青山 5-13-3

株式会社フィスコ

電話：03-5774-2443（IR コンサルティング事業本部）

メールアドレス：support@fisco.co.jp